

庭先で歩行型ロータリー除雪機を使用中、詰まった雪を取り除こうと、エンジンをかけたまま投雪口に手を入れてしまい、内部の刃で指を負傷した。除雪機による事故を防ぐ注意点は。

(70 歳代男性)

本格的な積雪期を迎え、除雪機を使う機会が増えています。免許なしで誰でも簡単に扱える反面、不注意で大きなけがを負う危険性があります。

2017 年 11 月から 18 年 3 月に全国で 90 件の事故が発生し死亡 8 件、重傷 46 件でした。県内でも 13 件の事故があり死亡 2 件、重傷 10 件となっています。

事故を防ぐため、次の点に気をつけてください。まず、定期点検を行い、安全装置（デッドマンクラッチ）が正常に作動するか、きちんと確認しましょう。

通常は、ハンドルのレバーから手を離すと機械が停止するようになっています。これを、ひもなどで固定して作動しないようにしていると転倒などの際、回転刃の部分が止まらず巻き込まれる恐れがあります。

また、詰まった雪を取り除く場合、エンジンをかけたままで、投雪口に手を入れては絶対にいけません。

雪の詰まりが解消されると同時に刃が回転し始め、けがをする危険性が高いためです。必ずエンジンを停止して鍵を抜き、刃が完全に止まったことを確認してから、雪かき棒で雪を取り除いてください。

このほか、移動中や収納中も十分に注意を。後進する際、障害物につまずいて転倒し、除雪機にひかれたり、巻き込まれたりする場合があります。

除雪機を操作して作業をする本人のご家族や周りの方も、事故の危険性や注意点をよく認識し、危険な使い方を見かけた場合は、一声かけるようにしましょう。